

# 第1章 地域から世界にひろがる 北九州市民環境力の強化

## 第1節 環境活動と地域コミュニティ活性化の好循環

近年、環境問題に対する知識や関心は高まっていますが、地球温暖化などの地球規模での環境問題は依然進展しています。私たちは、地球規模の問題であっても、解決の出発点は「個人の生活」であることを認識し、一人ひとりがライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、内発的・自立的に、より良い環境・より良い地域づくりを進めていく必要があります。そのために、地域の特色を活かして、市民・事業者・行政等の地域のあらゆる主体が力をあわせて環境活動に取り組むとともに、その活動の輪を広げていきます。

### 1. 北九州エコライフステージ

#### (1) 目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心に、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

平成20年度は、「世界の環境首都を目指して～減らそうCO<sub>2</sub>未来のために～」をテーマに、約43万人の市民が参画し、176行事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

#### ア. エコスタイルタウン

開催日：平成20年10月4日（土）・5日（日）

会場：北九州市役所横広場

内容

- 地球温暖化の要因や影響をわかりやすく伝えるパネルや地表の気温変化を表現した地球儀などを展示したテーマ館の設置
- 環境活動に取り組む団体による有機野菜を使った食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着した環境にやさしいライフスタイルを提案する出展
- マスメディアの参画によるステージイベント
- 気象予報士の地球温暖化についての講演会



エコスタイルタウンの様子

- ・デポジット制度を取り入れたリターナブル食器の利用
- ・ガイドマップのエコツリーに自分が行ったエコ活動の数だけ色をぬり、プレゼントと交換する取組

#### イ. 地域・テーマ別行事

通年事業

会場：市内一円

内容

市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。

#### (2) 成果

エコライフステージは、参加者が年々増加しており、市民に環境の環が広がってます。

エコスタイルタウンでは、103団体、13万人の市民が参加し、市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われました。出展者についても環境分野のみならず福祉分野、国際分野で活躍する団体が集結して持続可能な社会づくりを進めるきっかけとなりました。また、公共交通利用促進のために「ノーマイカー得々キャンペーン」を会場に隣接する旦過市場などと協働実施し、環境を切り口とした地域への経済波及効果を創出することができました。

また、メニューに、市内のカフェやレストラン（7店舗）で、フードマイレージ\*を表示する「北九州フードマイレージ」を実施することにより、「食えること」と「CO<sub>2</sub>がでること」のつながりを、多くの市民にPRすることができました。

\* フードマイレージとは、食べ物が運ばれてきた距離のこと。生産地から食卓までの距離が短い食べ物を食べることで輸送に伴って発生するCO<sub>2</sub>の排出量を少なくして、環境への負担を小さくする考えに基づく。

#### (3) 課題

環境活動の交流を促進するツールとして、インターネットを活用した情報共有・交流のポータルサイト「北九州エコライフネット」をさらに使いやすくなるための改善や適切な運営管理を検討します。また、エコライフステージが通年事業となったことから、よりいっそう効果的な環境活動の情報収集を行います。

### 2. 北九州市民環境パスポート（カンパス）事業

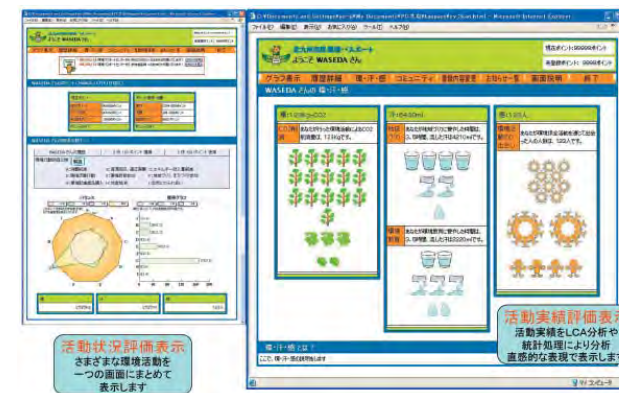
#### (1) 目的

環境パスポート（略称：カンパス）事業は、市民が楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するためのポイントプログラムです。環境に配慮した活動をした人が、活動内容に応じたポイントを取得し、そのポイントの特典と交換出来る「頑張れば頑張っただけ得をする」仕組みです。

現在は、IDカードを用いた「カンパスカード事業」と、レジ袋削減運動を中心とした「カンパスシール事業」を展開しています。

#### (2) カンパスカード事業

カンパスカードは、ポイント数、環境行動及びその評価をWeb上のグリーン通知表という指標で確認することができます。日常的な環境行動の度合いを感じることで、環境行動を推進するという特長があります。



グリーン通知表

#### 【これまでの経緯】

##### ア. 実証実験の実施（平成16年度）

平成16年に国の地域再生計画の認定を受け、総務省の地域通貨モデル事業として八幡東区東田地区を中心に2ヶ月間（H16.12～H17.1）の実証実験を行いました。

##### イ. 実証実験の結果検証（平成17年度）

実証実験で得られた結果をさらに検証するとともに、

全市普及を可能とするシステムの構築をはじめとする事業展開のあり方について、調査・検討を行いました。

##### ウ. 事業の実施（平成18年度）

検討結果を受けて、エコライフステージの期間中（平成18年10月）、ICカードを用いて、参加者1,000人を対象に事業を実施しましたが、事業の拡大を確実なものにするため、より簡易で安易なバーコード方式にシステムを改良しました。

##### エ. 事業の展開（平成19年度）

平成19年6月からは、新日鉄エンジニアリングと本市が協力して実施する「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実証事業」において、市内3ヶ所の回収拠点に、バイオエタノールの原料となる生ごみを、家庭から分別・持参していただいた場合にポイントを付与する事業を開始しました。

##### 【今後の展開（平成21年度）】

「食品廃棄物エタノール化リサイクルシステム実証事業」については、平成21年度で終了予定であるため、今回のカード事業も当年度で一旦終了します。今後は、環境モデル都市行動計画に基づき、より利便性の高いエコポイントシステムも検討していきます。



カンパスカード

##### (3) カンパスシール事業

平成18年7月の家庭ごみ収集制度の見直しを契機に、より一層の発生抑制（リデュース）を推進するため、消費行動の段階からごみの減量化を図ることを目的として、平成18年12月から全市共通ノーレジ袋ポイント事業「カンパスシール」を展開しています。

参加店で概ね200円以上の買い物をした際に、レジ袋を辞退すると、シールが1枚もらえる仕組みで、マイバッグ運動を推進しています。

レジ袋削減の取組は、直接ごみの減量化に結びつくだけでなく、レジ袋製造に使用される資源（石油）の節約や、CO<sub>2</sub>削減による地球温暖化対策にもつながり、また、環境に配慮した消費者（グリーンコンシューマー）を育成するという効果もあります。





ア. 事業期間

平成 18 年 12 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日  
(事業継続は状況を見て検討)

イ. 事業のしくみ

〈シールの流れ〉

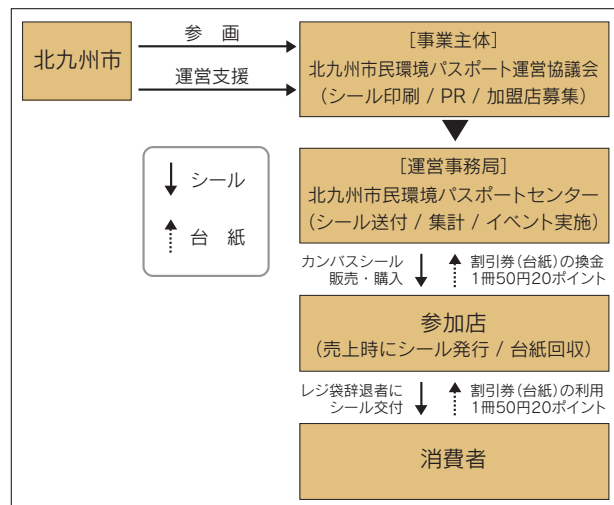
- 参加店は、消費者が概ね 200 円以上のお買い物をし、レジ袋の提供を辞退した場合にシールを 1 枚配布します。参加店は事前にシールを購入しておきます。
- 消費者は、所定の台紙にシールを 20 ポイント分貼り、参加店でお買い物時に 50 円の割引券として利用できます。
- 環境パスポート運営協議会は、参加店が実施した割引分(50 円)を参加店へ支払います。

〈シール〉

使用しているレジ袋の大きさに応じて 1 ポイントシール(2.5 円相当)と 0.5 ポイントシール(1.25 円相当)があります



〈運営体制〉



ウ. 参加店舗の状況

◆参加状況(平成 21 年 3 月現在)

業 種	参加店舗数	構成比
スーパーマーケット	119 店舗	39.0%
商 店 街	118 店舗	38.7%
百 貨 店	6 店舗	2.0%
個 人 商 店	22 店舗	7.2%
家 電 量 販 店	9 店舗	3.0%
病 院 内 売 店	1 店舗	0.3%
ホームセンター	2 店舗	0.6%
ドラッグストア	28 店舗	9.2%
合 計	305 店舗	100.0%

エ. 事業の特徴・役割分担

事業者はポイントシールを購入することで原資を負担しています。  
行政は、運営・PR の部分を担っています。

オ. お断り率

平成 21 年 3 月のお断り率は 21.7% となり、目標としていた 20% を超えました。  
※ お断り率 (%) =  $\frac{\text{カンバスシール発行枚数}}{\text{レジ通過客数}} \times 100$

カ. 環境負荷削減の効果

事業開始から 21 年 3 月末までの間(2 年 4 ヶ月)にカンバスシールは 2,300 万枚が使用されました。従って 2,300 万枚以上のレジ袋が削減されたことになり、これによりごみ量としては約 230t、二酸化炭素量は、約 1,380 トンが削減されたこととなります。

キ. 2 周年記念事業の実施

大都市減量化・資源化共同キャンペーンと連携して、平成 20 年 10 月に 2 周年記念事業を実施しました。  
シール 10 ポイントを一口とし、抽選で 1,000 名にエコバッグをプレゼントしました。

ク. 今後の取組

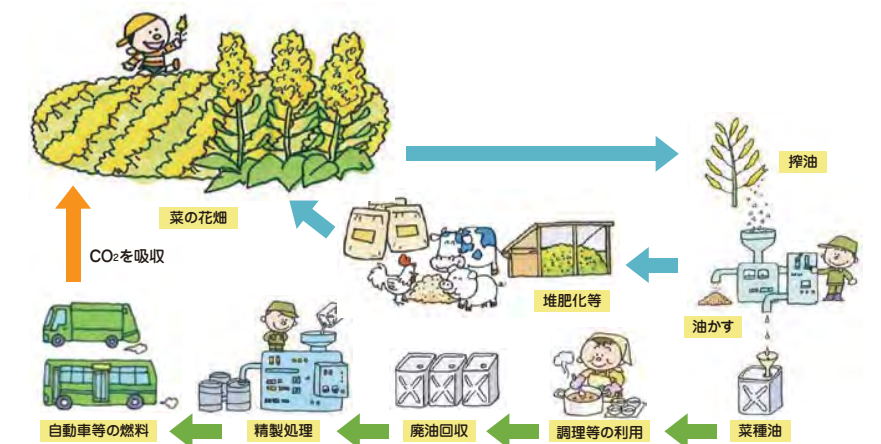
本事業は市民へのアンケート調査でも 70% を超える認知度があるなど、市民に定着し、目標であったレジ袋お断り率も 20% を超えることができました。  
今後は、これまでの実績を踏まえ、レジ袋の削減策を含めた 3R 推進の新たな方策についても検討していきます。

3. 菜の花プロジェクト

(1) 目的

本市では、平成 19 年度から、子どもから年長者まで参加できるエネルギー循環、地球温暖化を学習する取組として「菜の花プロジェクト」を推進しています。  
菜の花プロジェクトとは、菜の花を栽培し、搾油し、食用油として利用した後、廃食油を回収し、BDF(バイオディーゼル燃料)などにリサイクルし、再び活用する、地域の中で資源をつなぐというものです。

◆菜の花プロジェクトのエネルギー循環イメージ図



(2) 成果

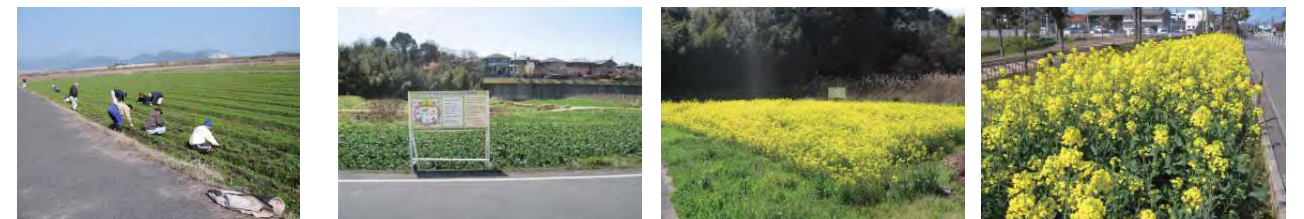
平成 20 年 9 月に菜の花栽培から菜種の収穫、搾油、菜の花を活用した環境学習に参加する団体を募集し、市内の 6 団体が実施しました。

また、11 月には「菜の花プロジェクト 2008in 河内温泉」として、河内温泉にある公園で、菜の花播種体験とセミナー参加者を募集し、大人 62 名、子ども 34 名、計 96 名の参加がありました。

上記以外にも、団体・市民の方々に、菜の花の種を配布し、栽培していただき、菜の花ネットワークは、少しずつ広がりを見せています。



菜の花プロジェクト 2008 in 河内温泉  
北九州グリーンヘルパーの会(小倉南区徳吉南)  
塔野まちづくり協議会(八幡西区塔野)



ラベンダー雇用支援センター(小倉南区曾根新田)  
北九州市農業協同組合(八幡西区笹田)  
畑むすめの会(若松区安屋)  
グリーンサポート(小倉南区志井)

(3) 今後の取組

菜の花プロジェクトは、始まったばかりであり、平成 20 年の秋に植えた花が 4 月頃満開になり、5 月に結実、収穫の時期を迎えました。  
本市では、搾油機を貸出するなどの支援を行う一方で、市内の食用油の回収場所を増やし、資源循環型の社会を築く取組として、菜の花で学ぶ環境教育を推進していきます。



菜の花プロジェクトをイメージした缶バッジ





4. 八幡東田地区グリーンビレッジ構想

(1) 背景

平成 13 年（2001 年）に「ジャパンエキスポ北九州博覧祭」が開催され、21 世紀における環境への取組のあり方について、様々な提示が行われました。その成果を活かし、本市が目指す「世界の環境首都」のモデルとなる環境配慮のまちづくりを進めるため、産学官民の協働で「八幡東田グリーンビレッジ構想」を取りまとめました。

一方、国においては、「全国都市再生のための緊急措置」において、「環境共生のまちづくり」を進めるためのモデルとなる提案を募集し、平成 15 年 6 月、本市が提案した「八幡東田グリーンビレッジ構想」が選定されました。この選定を機に、構想内容の具体化に向けた検討を行う「八幡東田グリーンビレッジ構想推進地域協議会」を設立し、平成 16 年 3 月に実施計画を策定しました。

(2) 八幡東田グリーンビレッジ構想実施計画

実施計画においては、6 つの取組を基本に据え、24 の推進プログラムを定めています。

取組	推進プログラム
① 共有価値の創造	1 北九州市民環境パスポート事業
	2 サイクル特区の構築
	3 カーシェアリングシステムの構築
	4 バス・トラック等大型交通（物流）の効率活用
	5 エコ・ドライブ支援プログラム
	6 アロハ・プロジェクト
	7 ローカルルールづくり
② 循環型エリアマネジメントシステムの構築	8 都市エネルギー管理システムの構築
	9 廃棄物マネジメント・システムの構築
	10 再生可能燃料（バイオエタノール混合ガソリン）の利用促進
	11 サステイナブル計画の策定
③ 街並み形成	12 街並み形成軸と歩行者ネットワークの構築
	13 東田グリーンビレッジ植林事業
	14（仮称）北九州オープン・エア・ミュージアム計画
	15 微気候形成プロジェクト
④ 快適な暮らしの創出	16 環境共生型住宅整備計画の策定
	17 シビック・コンビニエンス・センターの設立
	18 安全・安心のネットワークづくり
	19 「地球温暖化対策地域協議会」の立ち上げ
⑤ 協働を促進する拠点づくり	20 東田エコクラブを拠点としたパートナーシッププログラム
	21 交流の場と環境教育の場の提供
	22 サステイナビリティレポートの市民評価システムの導入
	23 東田サステナビリティレポートの整備
⑥ 取組の発信	24 まちづくりPR

(3) これまでの取組と成果

ア. 環境配慮のまちづくりを支える基盤整備

- 東田エコクラブハウスの建設 [H16.3 整備]



パッシブソーラー（太陽光や風などの自然エネルギーを利用した工法）等を活用した環境配慮型の建築物で、環境保全活動を行う NPO 法人等の活動拠点等として活用しています。

- カーシェアリング事業 [H17.1 事業開始]

構造改革特区（市民力が創る「環境首都」北九州特区）認定の下、低公害車を複数の事業者が共同利用することにより、環境への負荷を低減しています。



- 天然ガスコジェネ発電電力の地域内利用 [H17.2 事業開始]

構造改革特区（北九州市国際物流特区）認定の下、電力供給者と東田地区内に立地する企業等が資本関係等によらない、密接な関係を構築し、環境負荷の小さい天然ガスコジェネ発電電力の地域内利用を進めています。



- 環境共生住宅の建設 [H21.3 月竣工]

天然ガスコジェネ発電電力を利用し、170kW 級の太陽光発電設備、高効率給湯器等の省エネ型の設備等を備え、カーシェアリングも装備することにより CO<sub>2</sub> の排出量約 30% 削減を実現した環境共生住宅が竣工しました。この事業は、環境省「街区まるごと CO<sub>2</sub>20% 削減事業」に採択されています。



※ コジェネ（コージェネレーション）とは、熱と電気を同時に供給することができる熱電併給のことで、ガスエンジン、ガスタービン、ディーゼルエンジンなどの原動機を使って発電を行いながら、同時に発生する排熱を給湯、暖房、冷房などに利用するシステムです。

イ. 住民参加によるまちづくり

- 市民による花壇づくり活動  
住民が花壇づくり活動を行い、うるおいのある地域環境づくりに取り組んでいます。
- エコライフセミナーの実施  
住民等を対象に、家計ダイエットの秘訣等について学

んでもらう「エコライフセミナー」を実施し、エコライフ推進に取り組んでいます。



- 「八幡東田まちづくり連絡会」の活動  
八幡東田地区に立地する企業等で構成する団体で、地域内の清掃活動など、地区内の環境保全活動に取り組んでいます。また、この連絡会は「八幡東田温暖化対策地域協議会」としての一面も有し、エコドライブの実践や事業所版環境家計簿の採用など、地球温暖化対策にも取り組んでいます。

(4) 今後の取組

これまでに、環境配慮のまちづくりを進めるための基盤整備は概ね完了し、今後は、環境共生住宅に入居する住民も含め、地域内緑化活動など、地域住民や企業が主役となるしくみづくりを推進していきます。  
また、新たに「北九州水素タウン構想」の実現に向けた検討も進められています。（P44 参照）

5. わがまちの環境自慢

「わがまちの環境自慢」は、「世界の環境首都」の実現に向け、残したい自然・風景や環境活動に積極的に取り組む人などを発掘・認定し、PR していくもので、市民提案に基づいて平成 17 年度から実施しています。

平成 20 年度は、市民から 284 件の応募をいただき、149 件を認定し、認定証を贈呈しました。認定数は、平成 17～19 年分を合わせ、842 件となりました。

また、平成 20 年度は、小学生や中学生からの応募（187 件）が増えており、市民みんなで資産（たから）と能力（ちから）を発掘する「環境自慢」への関心の高さが伺われ、市民環境文化が浸透しつつあります。

認定された市民から「認定を受けて励みになる、これからは頑張りたい」「今まで北九州市にこんなすばらしいところがあることを知らなかった」などの声があり、市民の環境活動の環が広がっています。

認定された環境自慢は、市内の環境情報のポータルサイトである「エコライフネット」などで市内及び全国に情報発信し、北九州市の環境首都づくりに活用させていただきます。さらに、エコツアーなどビジターズインダストリーへも活用していきます。

※ エコライフネット <http://www.ecolife-net.jp>

テーマ：わたしの誇れる環境の「たから」と「ちから」！  
募集内容：①環境にやさしい建物や街並み  
②残したい自然・生物、守りたい里山  
③環境活動で誇れる人  
④環境に配慮した製品、サービス

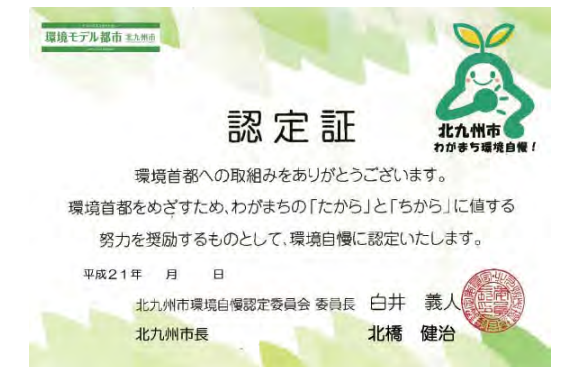
◆わがまちの環境自慢の例



団体部門：「JR 八幡駅前」の花壇に花を植えました（JR 八幡駅）



自然部門：畑の千本桜（八幡西区）



わがまちの環境自慢認定証